

「水」の国 NIPPON の持続型経営戦略について

株式会社 玄 代表取締役 政所 利子

1. 「今」この“時を観る”



**課題を明確化
目的・目標を
絞り込む**



奇跡の起こし方
課題 → 原因
工夫 → 知恵
改善 → 解決
効果 → 検証

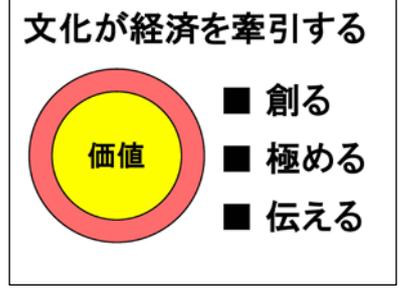
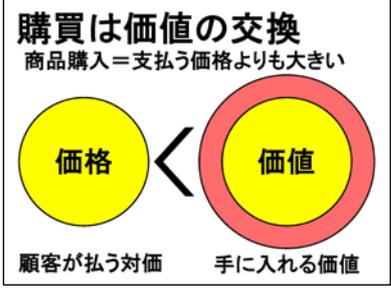
2. “水”を知る。

**地球人の
NEXT目標
SDGs**



3. THE 選択 4 STEP

共信納決 感頼得断



4. NEXT「ヒト・モノ・コト」づくりを考える

ローカルベンチャー繋ぎが広がる

- 北海道下川町
- 北海道厚真町
- 岩手県釜石市
- 宮城県気仙沼市
- 宮崎県石巻市
- 徳島県上勝町
- 宮崎県日南市
- 石川県七尾市
- 島根県雲南市
- 熊本県南小国町



森を『届けて』、未来を『創る』。

FRONTIER JAPAN

木材に特化したヘルシー製作企業として起業。デザイン性を兼ね、デザイン力での魅力的な製品づくりを行い、国産材の活用をもっと広めるため、アイディアから商品化を目指す。

- ・間伐材活用を通して森林保全に貢献
- ・Made in Japanのクオリティと伝統継承
- ・セレクト作業を通して地域社会に貢献



(東京都江東区)

新産業×新エネルギー

■女川産ギター



志移住(こころざしいじゅう)

おながわちょう (宮城県女川町)

復興奏でる東北の匠

■女川産ギター

女川産エレクトリックギター「SWOOD(ソード)」には、被災地・東北の技術が詰まっています。ホドニとわかほは三陸沿岸に伝わる宮大工「気仙大工」の技でつなぐ。金具を使わずに一体感を増した。弦がボディに固定する金具の特殊な構造、ロッドで弦が張り、土日は一目十人、良作に訪れることも。ソードは日本刀(SWORD)のイメージと、使用する国産木材(WOOD)のぬくもりが、名前にも込められている。価格は120万円と75万円の二種類。



(宮城県女川町)

木材の特性を誰よりも熟知

■宮大工／伝統的技法「木組み」

神社や仏閣には「木組み」と呼ばれる釘や補強金物一切使わない、木の特性を最大限に生かした工法で建てられている。木組みに使われる木材の加工は全て宮大工自身の手作業。木のどの箇所で作られているかによって木材の耐久性には大きな違いがある。現在宮大工継承者は100人程度と推定。



(小西英樹工務社 社長 澤田浩一 / フォトモンテン)

A: 仕口(しぐち) / よこわ付通しほぞ込接合
B: 継手(つぎ) / 鍵組(かぎづぎ)

古民家は宝石の原石

■古民家や集落をよみがえらせる

1968年に初来日。木造建築に魅せられる。日独で古民家の再生・移築ビジネスを展開しながら、1993年新潟県の限界集落(十日町市竹所)に、現在の自宅となる古民家を購入・再生させる。全国で再生した古民家数は50軒。



カール・ハイム・ペンクス
ワイド・リビッド・クリスティーナ・ペンクス

(新潟県十日町市)

物語のある家具

■国産家具メーカー(株)ワイス・ワイス

国産材を軸に、「人と自然の関係を結び直す家具作り」「多様な日本の森の在り方や子どもたちのことを考えた家具づくり」に取り組む。オリジナル家具は、全て森林資源の再生が管理されている木材(フェアウッド)を使用し、そのうち国産材の使用率は50%以上を占める。



(東京都渋谷区)

GREEN PROJECT

2009年、ワイス・ワイスは「GREEN PROJECT」を立ち上げ、「地球環境や子どもたちのことを考えた家具づくり」に取り組む。現在ワイス・ワイスと繋がっている地域、利用可能な木材を表示。



(株)ワイス・ワイス

地域ブランドプロジェクト

■松本家具 ■横浜・元町家具



松本民芸家具 (長野県松本市)
横浜・元町家具 (神奈川県横浜市)

5. そして未来へ。NEXT “水源地”

小原ECOプロジェクト

おはら ■集落人口1人!! 限界集落の挑戦

- ・古民家修復活動
- ・ミナクワックリ保全活動
- ・地域環境保護協力金システム導入
- ・エコツアー開催
- ・国際ワークキャンプ受け入れ
- ・耕作放棄地再生活動
- ・集落活動の支援
- ・祭り、朝忌、草刈、雪囲い
- ・屋根葺き直し等



集落人口1人+地縁住民

(福井県勝山市)

「志」クラウドファン

■集落人口1人!! 限界集落の挑戦



未来資源×新経済学

(福井県勝山市)

小原ECOプロジェクト

■限界集落での集落再生・活性化活動

小原集落は石川県境の山間の集落。明治期に90戸、400人程が暮らした。豪雪等を契機に人口減少。平成18年豪雪で多くの空き家が壊損・倒壊、15余戸の住宅が壊れるが、住民は2戸2人(集落人口1人)の農村危機に迫った限界集落。集落の再生・活性化を目指し、旧地元民と大工棟梁、福井工業大学建築土木工学科の連携事業。平成18年度プロジェクト開始。7棟の民家修復と休憩所1棟の建設。小原ECOプロジェクト主催イベントも実施。学生が企画・運営したイベントも実施。



(福井県勝山市)

小原ECOプロジェクト

■福井工業大学 学生プロジェクト

ふるさとで生活遺産を学生の手で残す。地方の過疎化は日本が抱える深刻な問題。小原集落も農村の危機に瀕し、伝統的木造建築等、歴史的価値の高い集落が失われようとしている。建築土木工学科多摩研究室学生が夏休期間を利用して、大工棟梁の指導のもと、空き家になった古民家を泊り込みで修復。祭りやカフェの運営を企画等、ふるさと再生に取り組む。



(福井県勝山市)

人が住まない“無住集落”

■上根来(かみねごり)集落

小浜市街地から車で30分、連敷峠上流の標高300m付近にある山里。かつて300人程が現在住居実数ゼロ人。しかしそこは農村ではなく、多くの家は手入れ、草刈り、清掃もされ、まだ人々が住んでいるよう。上根来には元住民の会「百鬼屋」があり、今でも年数回開催する。元住民も家を維持。お盆には寺が道具になる。人口ゼロなのに、地域コミュニティが残る不思議な集落。



(福井県小浜市)

ど田舎スピリッツプロジェクト

■上根来プロジェクト

上根来は、観光資源としての集落がすばらしい。日本の原風景がその姿を現され、文化財としての価値も高い。あらゆる観光資源を結びつけて活用。時代のニーズに合わせた「体験型観光」の舞台とし、人を呼ぶことで地域を維持・継続。資源活用例に、集落で行うグリーンツーリズム、山(自然)を利用したエコツーリズム等。



(福井県小浜市)

伝統の風習を守る

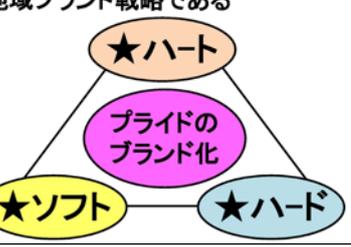
■還暦のお祝い

元住民がつながりを持つことで伝統の風習も守られている。還暦や厄年を迎えた人が餅を振る舞い、無病息災を願う伝統行事。上根来が無住集落になって5年たった今でも、途切れることなく続いている。



(福井県小浜市)

地域のプライドのブランド化こそが地域ブランド戦略である



★ハート
★ソフト
★ハード

プライドのブランド化

課題こそ資源の源泉

○ 生き残れる地域・地方

地域資源課題 × 人財 × アイデア

○ 持続可能な地域活動

企業・団体 継続 学び × 地域の課題 = 創 性

課題とコンセプトの明文化

参考資料

■ SDGs の 17 の目標 ～ SDGs シリーズ「なぜ大切か」

“2030 年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう”。大胆かつ新しい「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が 2015 年 9 月に国連総会で採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための 17 の目標「SDGs（エス・ディー・ジー・ズ）」。途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016 年 1 月から実施が始まっています。

- 目標 1 貧困をなくすことはなぜ大切か
- 目標 2 飢餓をゼロにすることはなぜ大切か
- 目標 3 すべての人に健康と福祉をもたらすことはなぜ大切か
- 目標 4 質の高い教育の普及はなぜ大切か
- 目標 5 ジェンダー平等を実現することはなぜ大切か
- 目標 6 安全な水とトイレの普及はなぜ大切か
- 目標 7 手ごろな価格のクリーン・エネルギーの普及はなぜ大切か
- 目標 8 ディーセント・ワークと経済成長を両立させることはなぜ大切か
- 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくることはなぜ大切か
- 目標 10 人や国の不平等をなくすことはなぜ大切か
- 目標 11 住み続けられるまちづくりはなぜ大切か
- 目標 12 責任ある消費と生産はなぜ大切か
- 目標 13 気候変動に具体的な対策を取ることはなぜ大切か
- 目標 14 海の豊かさを守ることはなぜ大切か
- 目標 15 陸の豊かさを守ることはなぜ大切か
- 目標 16 平和、正義と充実した制度機構はなぜ大切か
- 目標 17 パートナーシップで目標を達成することはなぜ大切か

(出典 : http://www.unic.or.jp/news_press/info/24453/)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標

